

令和元年度(2019年度)第1回 グランドデザイン改定部会

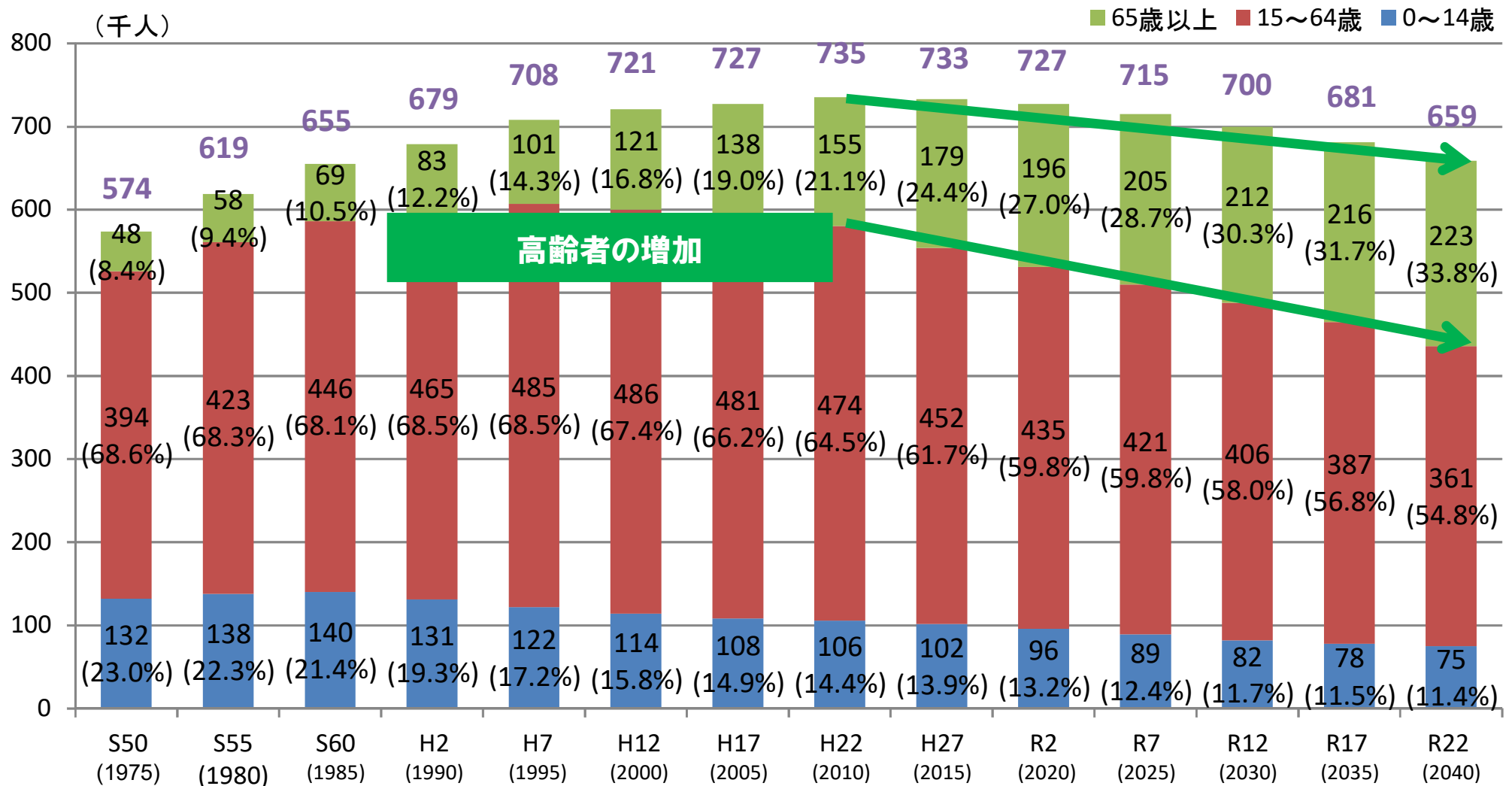
ー公共交通に関する現状と課題、これまでの取組等ー

目 次

- P 1 人口動向
- P 2 都市マスタープラン
- P 3 公共交通機関の利用者数
- P 4 交通手段の特性
- P 5 公共交通利用者数の推移
- P 6 現状と課題(まとめ)
- P 7 現行の公共交通グランドデザインについて
- P 8 公共交通グランドデザイン策定後の主な取組①
- P 9 公共交通グランドデザイン策定後の主な取組②
- P10 熊本都市圏都市交通マスタープランについて①
- P11 熊本都市圏都市交通マスタープランについて②
- P12 公共交通グランドデザイン改定について

人口動向

■人口減少・超高齢社会が進展。2010年では総人口約74万人、うち65歳以上の高齢者が約2割。
2040年は総人口約66万人、うち65歳以上の高齢者が約3割の見込み。



▲熊本市の年齢別人口推計

(出典: 国勢調査、H27以降の人口は熊本市人口ビジョン)

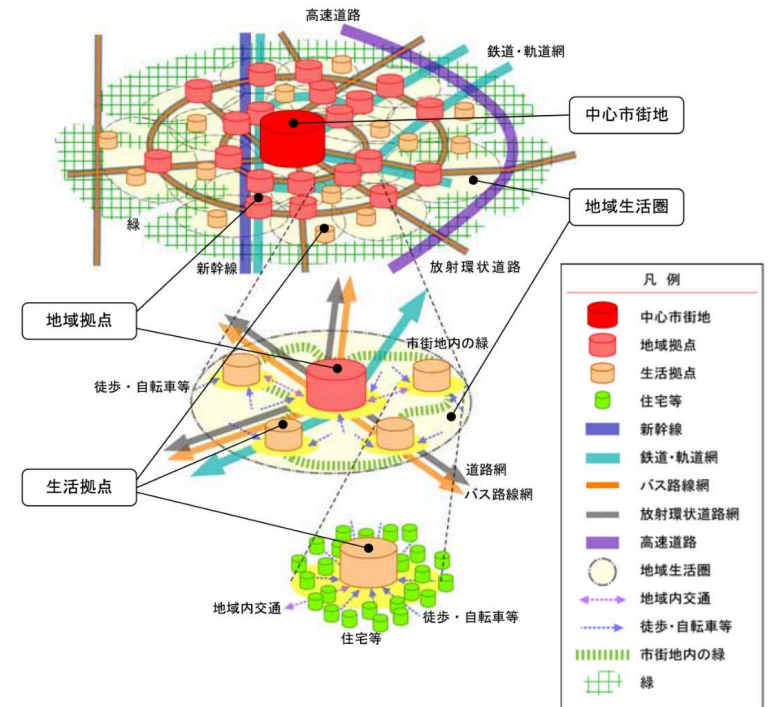
熊本市都市マスタープラン (全体構想:平成21年3月策定 地域別構想:平成26年3月策定)

■人口減少・超高齢社会に対応した、将来にわたり持続発展可能な多核連携型の都市構造を目指す。

都市の全体構成図

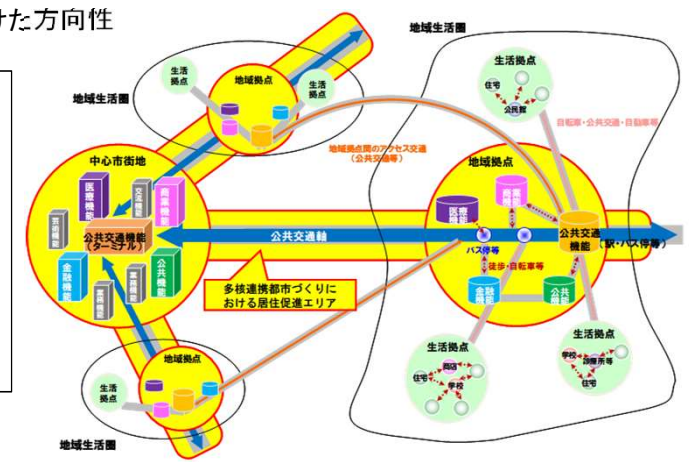


全体イメージ図



■多核連携都市の実現に向けた方向性

- ① 中心市街地や15箇所の地域拠点への都市機能集積
- ② 利便性の高い公共交通で中心市街地と地域拠点を結ぶ
- ③ 公共交通軸沿線に居住を促進する

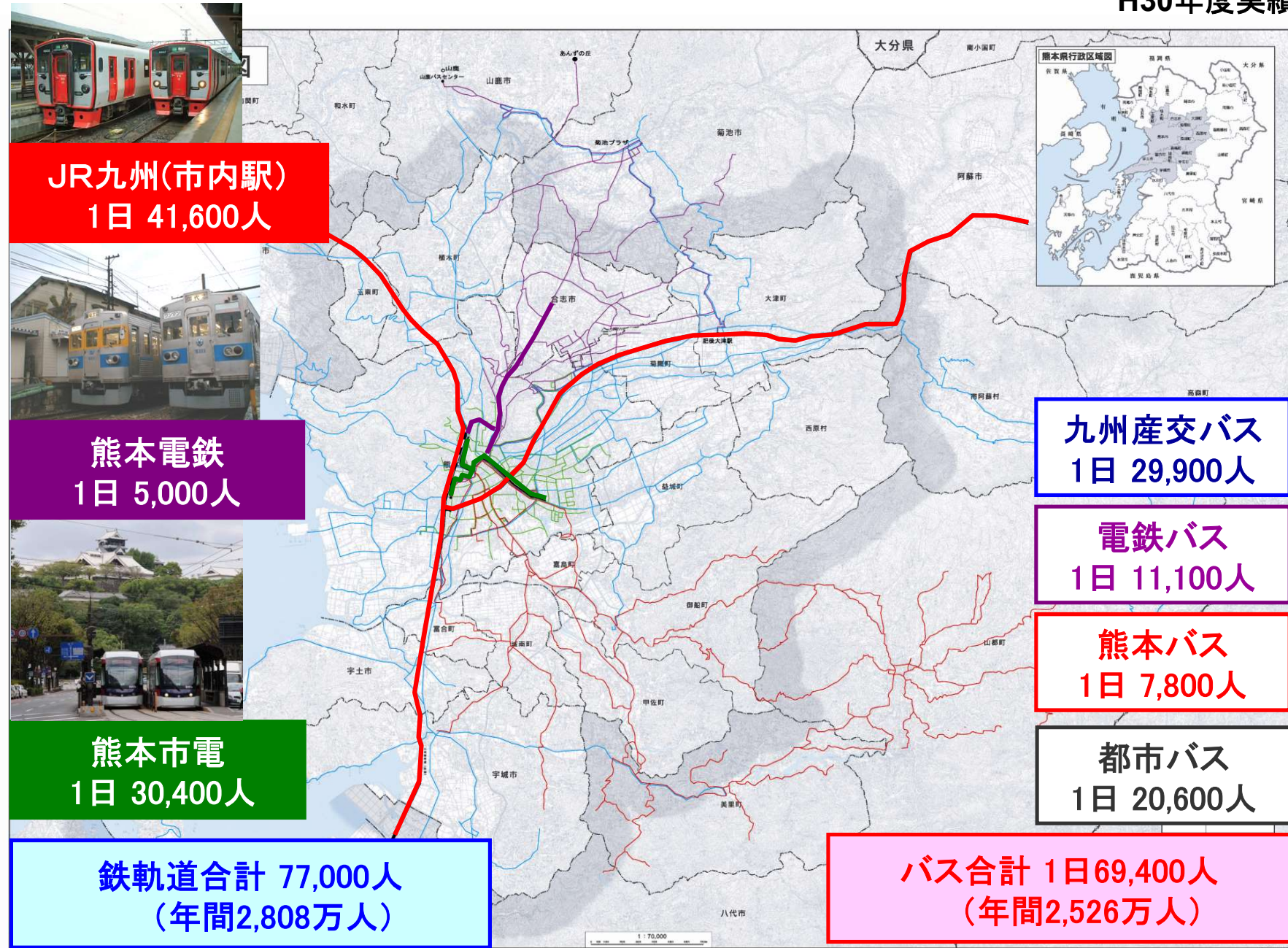


公共交通と一体となったまちづくりを推進することで、だれもが移動しやすく暮らしやすい多核連携型の都市構造を目指す。

公共交通機関の利用者数

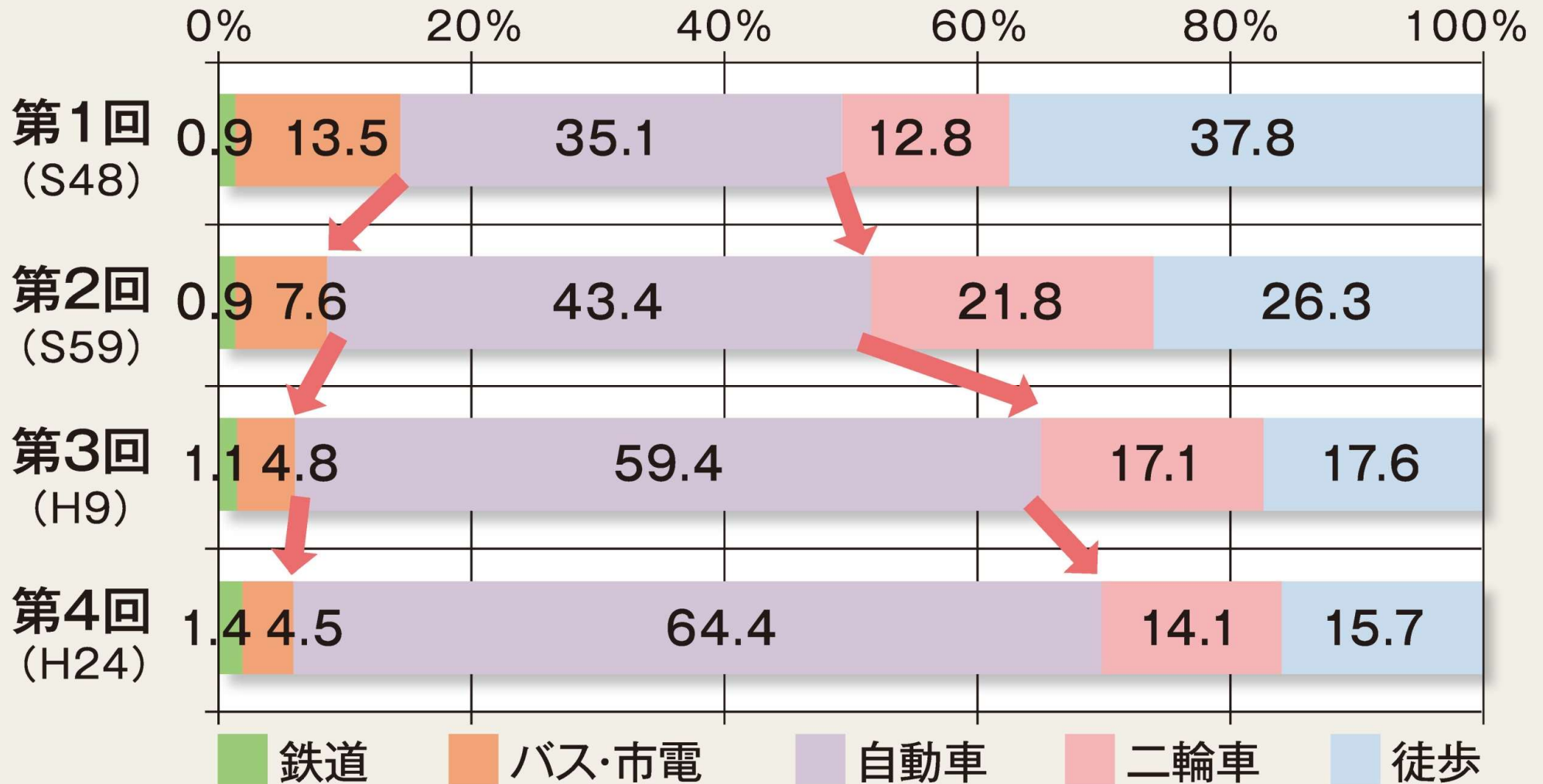
■熊本都市圏の公共交通利用者数は1日に約14.7万人。その内訳として、鉄軌道は約7.7万人、バスは約7万人。

H30年度実績



交通手段の特性

■自家用車の普及や女性の免許保有率の上昇などに伴い、自動車分担率は、昭和48年と比べほぼ倍増し、都市圏交通の約2/3が自動車利用となっている。

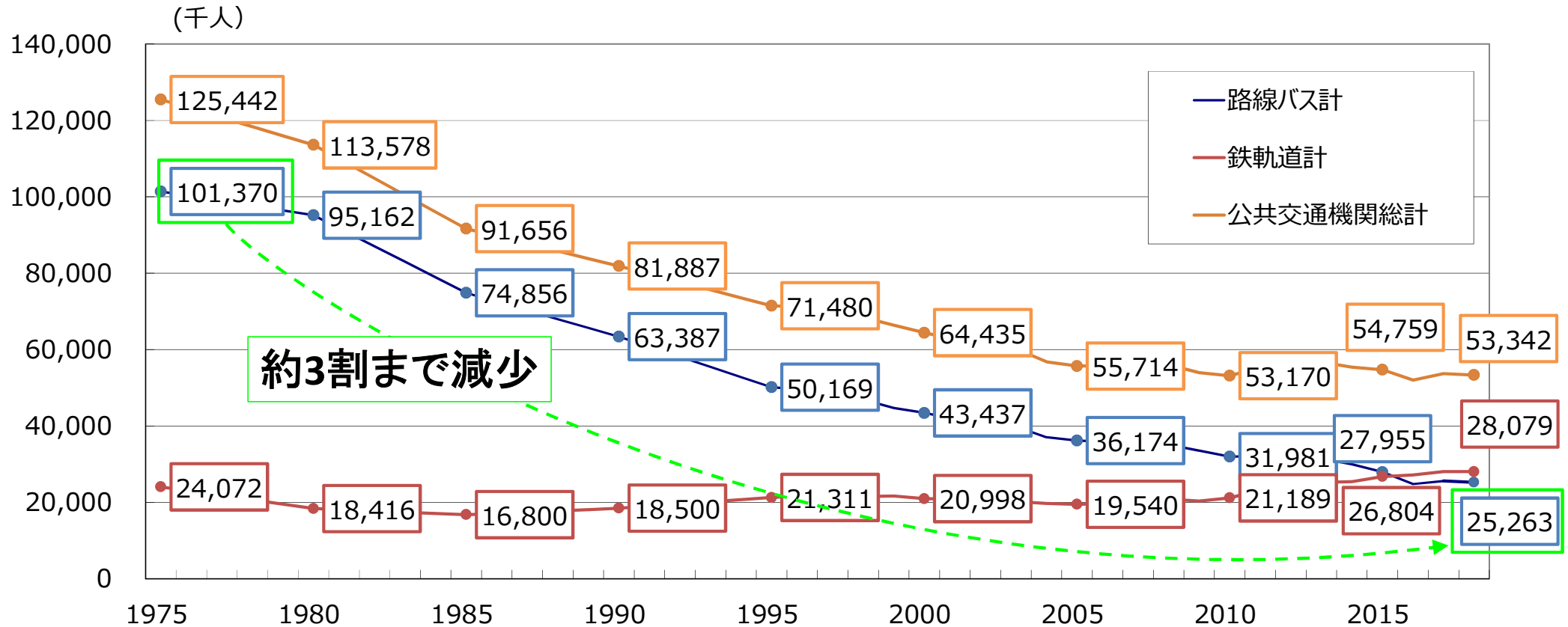


▲交通手段別分担率の変化

(出典: 熊本都市圏パーソナリティ調査結果(S48・S59・H9・H24))

公共交通利用者数の推移

■バス利用者はピーク時の約3割まで減少しており、鉄軌道系は、概ね横ばいで、近年は微増傾向。



▲年度別公共交通利用者数の推移

現状と課題まとめ

- 公共交通の利用者数の減少、事業者の経営悪化、サービス水準の低下が負のスパイラルとなり、利用者減が継続。
- 人口減少・超高齢社会、環境問題等へ対応するためには、持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークが必要。

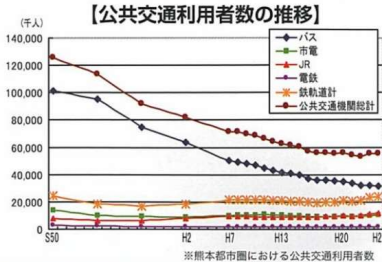


地域の大切な公共交通の維持・確保が厳しい状況に！

公共交通利用者の減少

- 自家用車への過度の依存や本格的な人口減少社会の到来等により、公共交通利用者は長期的に減少傾向

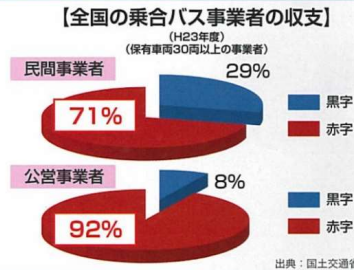
×熊本市のバス利用者はピーク時の約3割にまで減少



公共交通事業者の経営悪化

- 公共交通利用者の減少により、全国の乗合バス事業者の約7割が赤字

×熊本都市圏を運行する乗合バス事業（高速バス事業を除く）も赤字経営



公共交通サービス水準の低下

- 公共交通事業者の経営悪化により、バス路線等が廃止・減便され、公共交通を利用しづらい地域が拡大

×熊本市にも公共交通空白地域が7地域（対象人口は6千人）

	公共交通空白地域	公共交通不便地域
バス・鉄道路線からの半径距離	1,000m以上離れた地域	500～1,000mに該当する地域
対象人口	6,000人	35,000人
対象面積	44km ²	87km ²
公共交通空白・不便地域の解消	行政主体で地域と協働しながら取り組む	地域主体の取組に行政が支援する

※熊本市における公共交通空白地域・不便地域の状況

公共交通利用者が更に減少（負のスパイラル）



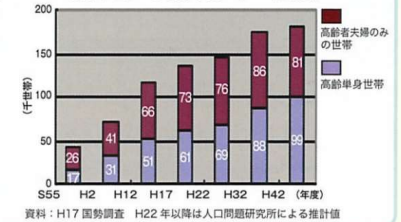
将来的に公共交通が重要な交通手段に！

人口減少・超高齢社会の到来

- 高齢化が進み、自家用車の運転が困難な人が増え、移動手段の確保が困難な状況に！



【熊本県の高齢者世帯の状況】

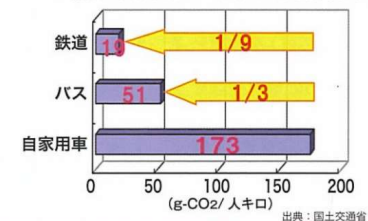


環境問題への対応

- 地球温暖化などの環境問題により低炭素社会への転換を！



【輸送機関別の二酸化炭素排出単位】



持続安定的な公共交通事業の確立

- 負のスパイラルから脱却し、持続可能な公共交通事業へ！



【全国の乗合バスの路線廃止状況】
(高速バスを除く、代替・変更がない完全廃止のもの)

年度	廃止路線キロ
18年度	2,999
19年度	1,832
20年度	1,911
21年度	1,856
22年度	1,720
23年度	842
計	11,160

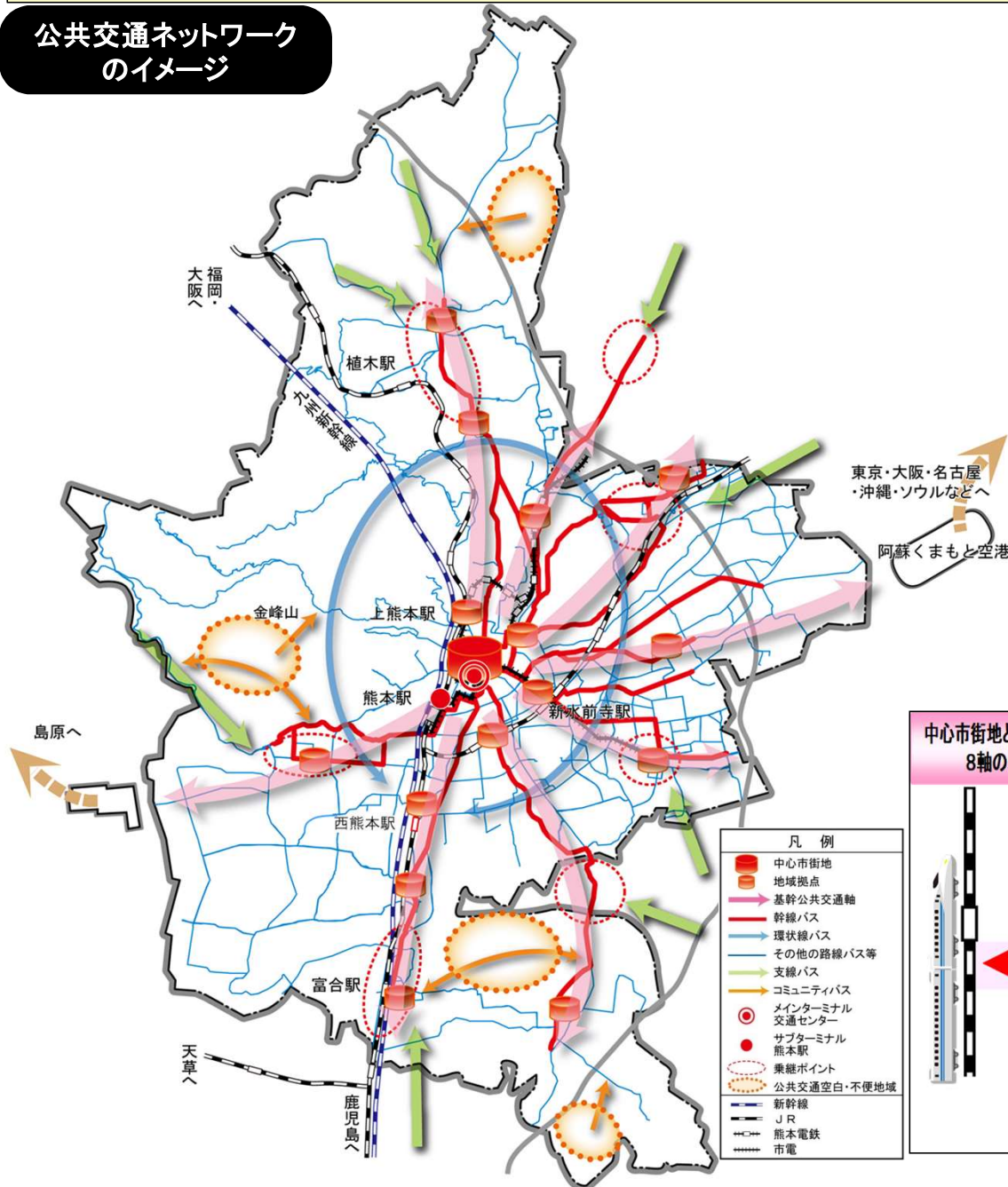
(※) 市内一環状道路の距離は約1.810km
出典：国土交通省

利便性の高い公共交通で結ばれたまちづくりへ

現在の公共交通グランドデザインについて(平成24年3月策定)

■本市の公共交通ネットワークの将来像。公共交通を基軸とした多核連携のまちづくりに向け、基幹公共交通軸の機能強化、バス路線網再編、公共交通空白・不便地域解消により、公共交通ネットワークを形成するイメージを提示。

公共交通ネットワークのイメージ



基幹公共交通(鉄道、市電、幹線バス)の強化

中心市街地と15の地域拠点を結ぶ8軸を「基幹公共交通軸」と位置づけ、輸送力、速達性、定時性の強化を図る。



▲超低床電車



▲連節バス

日常生活を支えるバス路線網の再編

基幹公共交通を補うバス路線網を再編し、わかりやすく効率的な運行体制を確立する。



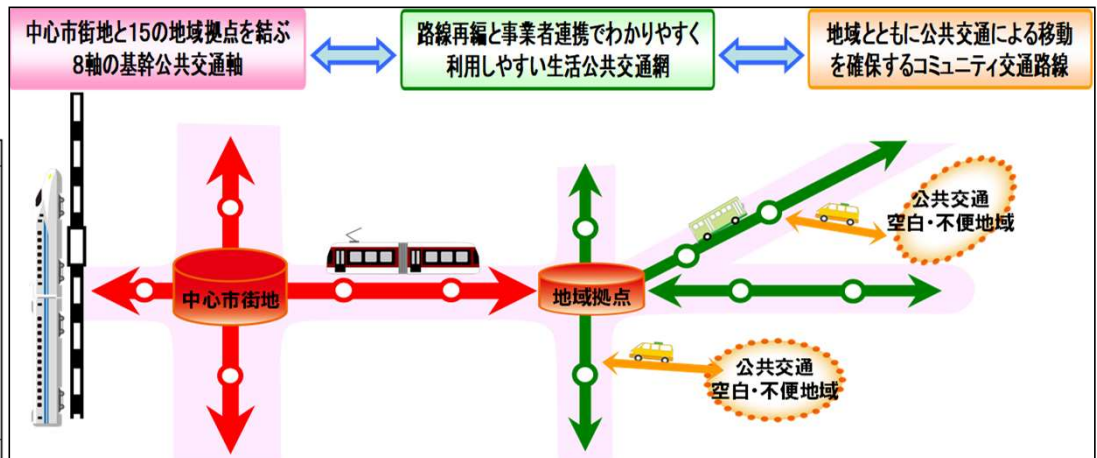
▲バス専用レーン(国道3号)

公共交通空白・不便地域への対応

地域と協働で「コミュニティ交通」の導入を進め、公共交通の空白・不便地域の解消を目指す。



▲乗合タクシー



公共交通グランドデザイン策定後の主な取組①

■多両編成車両の導入、新駅設置による基幹公共交通軸の機能強化、植木・北部方面のバス路線網の再編
乗合タクシーの導入等による公共交通空白・不便地域の解消、そのほかメインターミナル整備やICカード導入を実施。

基幹公共交通軸の強化

■基幹公共交通軸輸送力強化



▲2両編成の超低床車両

■鉄道新駅の設置



▲西熊本駅

公共交通の利用促進

■ICカードの導入



■位置情報提供サービス



バス接近情報	
1	12:35に二本木口を通過 12:35発 ⇒ 12:52着 (予定) 【鹿6】 大江四丁目経由→保田窪新道 →東西線→鉄工団地前→トラックター →トラックター行き 運行事業者：九州産交バス
二本木口 (1停前)	
	約3分遅れ 地図で確認 >
12:35	熊本駅前
12:52	通町筋
2	12:35に田崎市場前を通過

▲バスロケーションシステム

バス路線網の再編

■バス路線網の再編



公共交通空白・不便地域の解消

■乗合タクシー



■ゆうゆうバス



■バス待合環境の向上



メインターミナルの整備

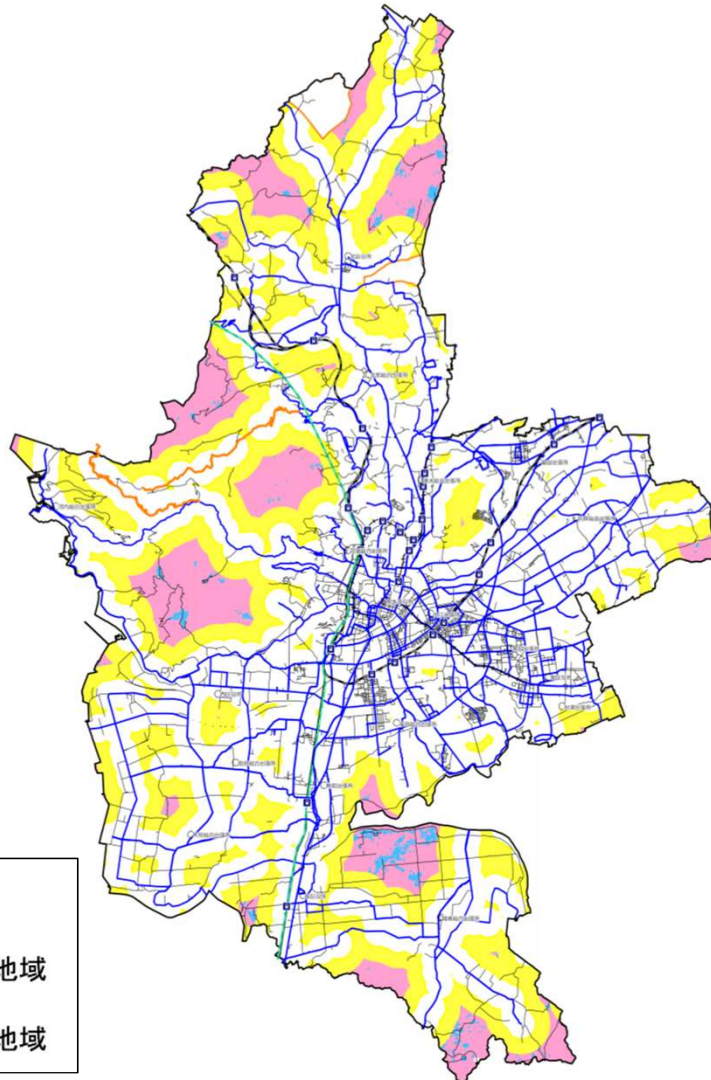


▲熊本桜町バスターミナル

公共交通グランドデザイン策定後の主な取組②

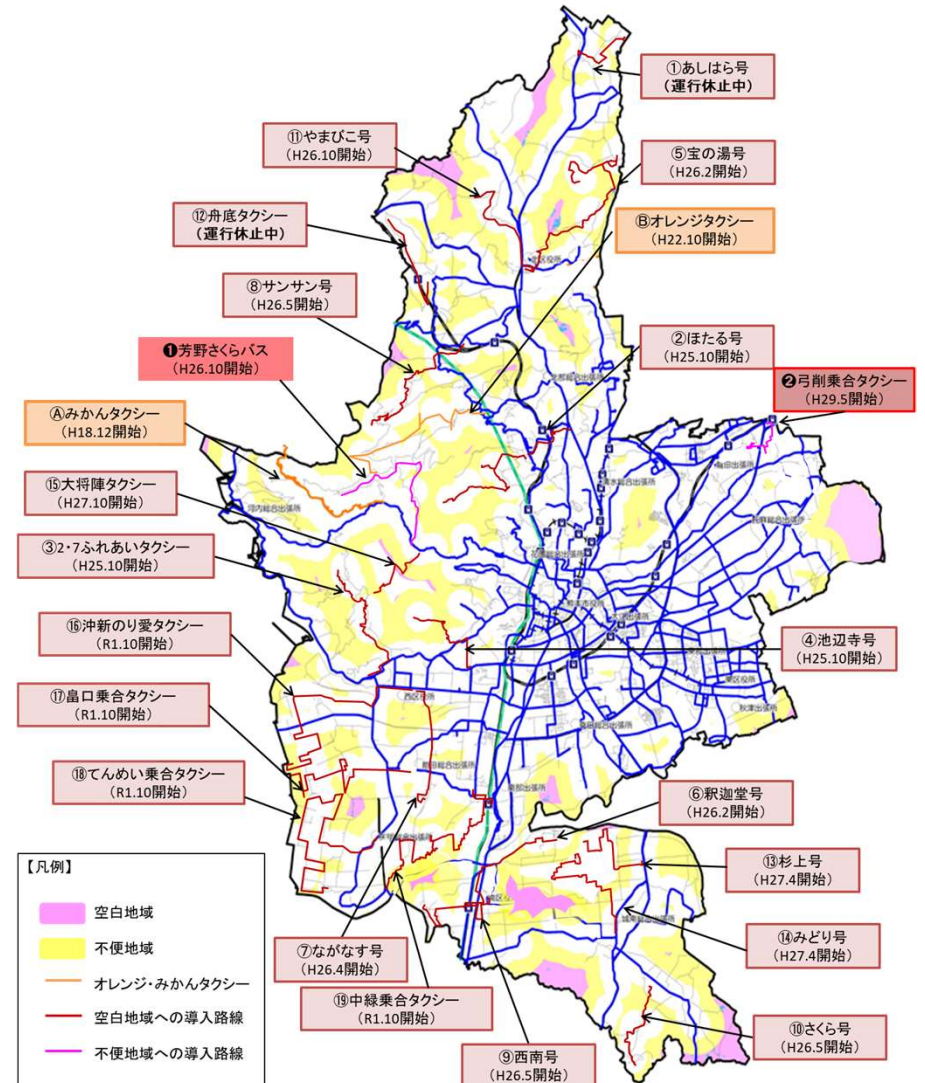
- 予約型乗合タクシーを公共交通空白地域へ19路線、公共交通不便地域へ1路線導入。
- 定時・定路線の乗合タクシーとして芳野さくらバスを運行。対応が必要な公共交通空白地域等を概ね解消。

H25年度4月



▲公共交通空白・不便地域の状況

R元年度10月

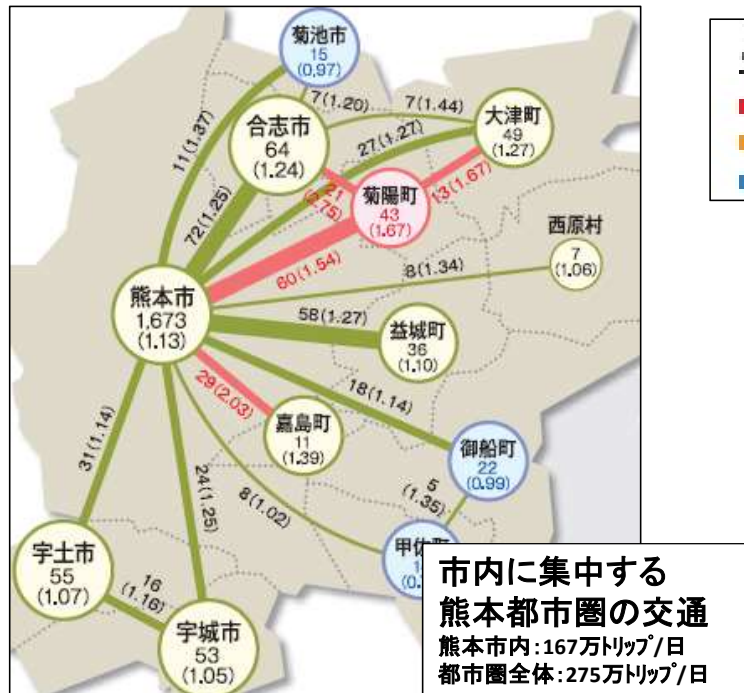


▲乗合タクシーの導入状況

熊本都市圏都市交通マスタープランについて①

- 平成24年に実施したパーソトリップ調査結果を踏まえ、平成28年3月に熊本都市圏都市交通マスタープランを策定。
- 市内に交通が集中し、自動車分担率も大幅に増加。将来的にも概ね外環状道路より内側に渋滞が残る見込み。

熊本都市圏の交通流動



▲熊本都市圏パーソトリップ調査結果(H24)

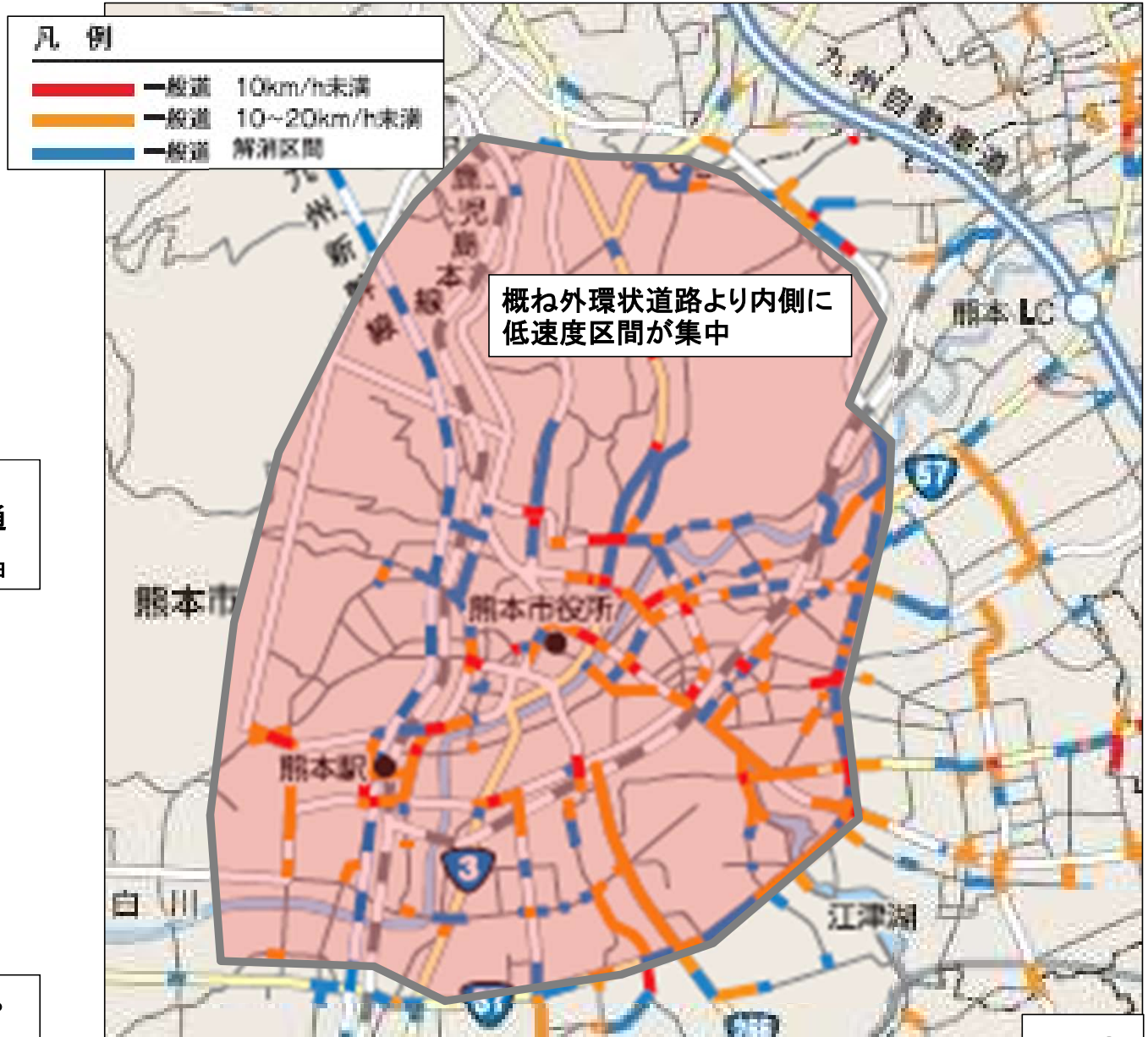
交通手段別分担率の変化



自動車の分担率が、約2倍に増加。
(S48とH24の比較)

▲熊本都市圏パーソトリップ調査結果(S48・S59・H9・H24)

事業中の道路完成後に残る朝ピーク時の低速度区間の将来予測



▲熊本都市圏パーソトリップ調査結果(2035OD・事業化ネット推計値)

熊本都市圏都市交通マスタープランについて②

■過度に自家用車利用に依存してきた交通体系を、地域ごとの交通特性に応じて再構築し、公共交通と自動車交通を効率的に組み合わせた都市交通体系の最適化、いわゆる『ベストミックス』を提示。

ベストミックスの構築



▲ベストミックスのイメージ図(出典:熊本都市圏都市交通マスタープラン)

公共交通グランドデザインの改定について

■公共交通グランドデザインは概ね10年後の将来像。策定後の状況変化等を踏まえ改定を実施。

(1) 策定から一定期間の経過

■公共交通グランドデザインは、平成24年3月に策定。概ね10年後の将来像を示しており、時期的に見直しが必要。

(2) 熊本都市圏都市交通マスタープランの策定、ベストミックスの提示

■平成24年に実施されたパーソトリップ調査の結果を踏まえ、平成28年3月に熊本都市圏都市交通マスタープランが策定。

■熊本都市圏の交通流動や将来予測等を踏まえ、公共交通と自動車交通を効率的に組み合わせたベストミックスを提示。

(3) 新技術の活用等

■ICTの進化による公共交通への新技術の導入検討が本格化。MaaSやAI等の新技術の反映を想定。



公共交通グランドデザインの改定へ